

フードバンクセンター設置 「定着する事業へ」強く要望

奈良市は昨年12月1日から、新型コロナウイルス感染症拡大で経済的困難を抱える子育て世帯を対象に、子どもの食の支援を行う拠点「フードバンクセンター」を開設しました。平成26(2014)年に閉園した旧市立佐紀幼稚園(同市佐紀町)Ⅱ写真Ⅱの建物を整備し、運営は「NPO法人フードバンク奈良」に委託します。今年度中に、子育て世帯500世帯への配布を目標にしています。

わたしはこのフードバンク事業に対して市議会9月定例会の一般質問に登壇し、今後の運営方法などについて問いました。仲川元庫市長からは「個人や企業などから寄付された食料を、冬休みや春休みなど

認知症サポーター 目標数上回る受講者数 福祉現場で協力体制の構築提案

コロナ禍で外出を控える高齢者の方々が増加しています。国の推計では2025年には5人に1人が認知症を患うとの試算もある中、地域で安心して生活できる環境づくりが重要になります。市で行っている「認知症サポーター養成講座」の受講状況と、目標数、今後の取り組みについて質問しました。

状況にあります。わたしはこれら認知症サポーターを受講いただいた方々のご協力をいただけるような仕組みやプラットフォームの整備を提案しました。

文化財防火 予防業務に尽力を

一昨年10月31日に発生した沖繩県の首里城の火災を受け、数多くの貴重な文化財を有する奈良市の火災予防の取り組みの進捗について、質問しました。市は文化財防火週間に実施した立ち入り検査の結果、15の文化財施設で33項目の指摘事項があったことを明らかにし

また平成24年度から市は受講された方のうち、その経験を活かして行動をしたい方などを対象に「ステップアップ講座」を実施し、これまでに342人が受講し、50人が市内17カ所ある認知症カフェでボランティアとして活動していただいていると説明。

現在、コロナ禍の中で介護の人材不足が続いており、外国人の人材を活用するにも入国ができない



また平成24年度から市は受講された方のうち、その経験を活かして行動をしたい方などを対象に「ステップアップ講座」を実施し、これまでに342人が受講し、50人が市内17カ所ある認知症カフェでボランティアとして活動していただいていると説明。

現在、コロナ禍の中で介護の人材不足が続いており、外国人の人材を活用するにも入国ができない



会派メンバーらと、 国へ来年度の予算要望

今年度、近鉄大和西大寺駅の歩行者空間整備や同駅北口駅前広場整備などに活用された国の「社会資本整備総合交付金」や、「防災・安全交付金」の来年度の予算要望のため、わたしが所属する奈良市議会の会派「自民党・結の会」のメンバーと仲川市長は昨秋、共に上京し、国土交通省や財務省を訪れました。

両交付金は、この他にも京奈和自動車道のインターチェンジやJR新駅へのアクセス道路整備や、「六条奈良阪線」の整備などにも活用される予定です。



市は「コロナ禍の状況により、デイスサービスや訪問サービスの利用率が落ちている。保険料については、将来にわたり、持続的にサービスが提供できるよう慎重に協議する」と答弁がありました。

介護保険制度は、給付費が増加すれば、介護保険料が増加することになります。健康長寿社会への実現に向け、介護予防事業を二層充実させる対策を求めました。

facebookで市政情報や さまざまな地域活動の 情報を発信しています。



歳末火災予防運動
昨年12月29、30日の2日間は「年末特別警戒」で、奈良市消防団都跡分団にて、担当地域を巡回

車両納入式

昨年10月22日、奈良市・相楽中部消防組合ではご付消防自動車共同運用の車両納入式が行われました。



まちびらきイベント
県民を対象に、県コンベンションセンターで「まちびらきイベント」が開催されました。



地元の秋祭り
コロナの関係でお神輿は中止になりましたが、お宮さんの神事が執り行われました。

健康長寿社会実現へ 事業の一層充実を

市は現在、「住み慣れた地域で誰もが安心していきいきと暮らせるまち『奈良』を目指していく」との理念を掲げた第7期介護保険事業計画期間中で、来年度から令和5年度までの第8期計画を策定中です。75歳以上の後期高齢者の人口増加が予測されます。

またコロナ禍の中、デイスサービスや訪問サービスをはじめ、外出自粛や利用を控えている方々の身体状況が低下している懸念があります。計画を策定していく、市の考えを市議会12月定例会で問いました。

介護保険事業計画策定